

国語プリント No. ( )

年 組 番 名 前

配布日 月 日 曜

## 「羅生門」の構造

### 目的

「文字として書かれていないこと」を読み取れるようになる。

### 目標

「羅生門」の主人公「下人」がどのように変化したか、次の表現をもとにしてみんなが自分 の言葉で説明できるようになる。

「羅生門」の主人公「下人」は物語の中で（A《どのような？》）子供から、（B《どのような？》）大人に（C《いつ？》）の時点で成長した。

A 物語の冒頭部で、下人の幼さ（まだ大人ではない様子）が表れている表現を見つけなさい。

B 物語の結末部で、下人はすでに大人になつてているのだが、何を以て「大人」と言えるのか？

C 下人が「子供」から「大人」へと変化した時（一文または一会話）を抜き出しなさい。

頁 行目

D 「羅生門」では、「大人になる」ということは、どういうことだと描かれているか？

物語の構造とは？

とてもシンプルだ。次の一文に尽きる。

登場人物が「旅」をして、「逆転」する。

「旅」とは……本当の旅だったり、心中で思いをめぐらすことだったり、時間が過ぎたり、時間が過ぎたり、つたり、悩んだりなど、様々な場合がある。  
 「逆転」とは……今まで劣勢だったものが優勢になつたり、その逆だったり、「悪」だったものが「善」になつたり、その逆だったり、わからないことがわかるようになつたり、など、争いや戦い、葛藤により、《旅立ち》と《結末》では、立場が変化することをいう。

具体例・「水戸黄門」

(優勢)

(A) 悪代官・越後屋  
(a) 悪の象徴

(劣勢)

(B) 町人・町娘  
(b) 善の象徴

《冒頭》

助さんが紋所を悪代官に見せる

《逆転》

(B) 町人や町娘が助かる  
(b) 善の勝利  
(A) 悪代官と越後屋がひれ伏す  
(a) 悪の敗退

《結末》

《旅》黄門様一行がスパイとなり(おとり捜査をして)悪を暴く。

悪は必ず滅び、善は報われる。